

拡大する戦火の中で、市民の生命と生活の活動を続けます

2年以上続いたガザでの戦闘は、2025年10月ようやく「停戦合意」となりましたが、その後も爆撃が続き子どもを含む600人以上が亡くなるなど、実際には戦争状態に変わりはありません。食料事情は改善傾向にあるものの、人口の8割近い160万人が緊急食料支援を必要としているほか、100万人を超える人々が給水支援を必要としています。また医療施設の60%が機能しておらず、母子保健や一般疾患への対応なども十分に提供できていない状況はいまだに続いています。

ガザの停戦は、トランプ米大統領の「20項目和平計画」に基づいていて、11月にはこれを承認する国連安全保障理事会2803号決議が採択されました。

その結果、ガザの土地の53%以上はイスラエル軍が占領し、全人口210万人が従来の半分以下の土地に押し込められました。今後のガザの復興はトランプ大統領を終身議長とし、その側近や実業家などによる「平和評議会」がすべてを決めることになりました。当事者であるパレスチナ人には、現地の実務家からなる「移行統治委員会」に日常的な公共

サービスを担わせるだけで、ガザの将来についての発言を認めないというものです。また多国籍の「国際安定化部隊」がハマスの武装解除を担当するというものの、実際にはイスラエル軍の関与は長く続くとみられています。復興については「ガザをリビングに」というリゾート不動産開発がうたわれ、ガザ住民の生活や占領の問題は無視されています。

こうした中でも、ガザの市民社会は現状に抗して、人々の生命と生活を守る活動を続けています。

今号ではそうした人々の営為を紹介するとともに、彼らの思いを皆さんにお届けしたいと思います。中東全域に戦火が波及しているいま、パレスチナ子どものキャンペーンでは、戦火に苦しむ人々の支援を続けます。変わらぬご協力をお願いいたします。

東京大学准教授鈴木啓之さんの
オンラインセミナー
「安保理決議2803号とガザの行末」
(3月5日開催)を
YouTubeで4月5日まで
ご覧いただけます



ガザ緊急募金へ 引き続きご協力ください

子どもたちに平和と未来を届けるためにご協力をお願いします。



★レバノン緊急支援募金を開始しました

*ご寄付についての詳細は、裏表紙をご覧ください
*パレスチナ子どものキャンペーンは、2,000円以上の寄附金で税金控除を受けられる認定NPO法人です。



from Gaza



ガザからの声①

命にかかわる状況は変わっていない

ルブナ・サバハさん(NECCコーディネーター)



停戦から5か月を迎えようとしているが、状況は全く予測できず、未来を考えることは不可能です。毎日どこかで爆撃があり、パレスチナ人の将来やガザの復興などはまったく見えてきません。3週間前には、イスラエル軍によってガザ市東部のザイトゥーン地区から人々が追いだされました。

保健医療状況をお話すると、ニーズは医療システムの能力を超えています。麻酔薬や酸素をはじめとして、癌の薬、抗生物質も不足しています。ガザへの搬入が制限されているからです。医薬品だけでなく、電気も燃料も足りません。輸血用血液もワクチンも、滅菌器も足りません。WHOやユニセフから提供されるワクチンもしばしば止められるため、計画通りの接種ができません。

劣悪な衛生状態、特に水の汚染によって、下痢、A型肝炎、寄生虫、インフルエンザなどの感染症が大変多く見られます。また高血圧、糖尿病、心疾患の患者さんも多いです。こうした慢性疾患の薬はかなり足りません。また、腎臓の悪い患者さんも非常

現地パートナー団体 NECC のルブナさんから、現地の医療状況と活動の様子を聞きました。NECC は中東キリスト教協議会が設立したガザの医療団体で、パレスチナ子どものキャンペーンは2020年から母子保健と乳幼児の栄養支援で協働してきました。ガザ危機の中でも、その支援を続けています。

に多いのですが、透析設備の多くが破壊されてしまい、ごく限られた施設しか残っておらず、順番を待っている人も多いです。いずれも命にかかわる状況です。

栄養状態に問題を抱えているのは、乳幼児と授乳中の母親、妊婦です。停戦後、物資搬入の状態は改善されたというものの食品の価格は非常に高く物価は2倍以上、失業率は86%と言われるので、多くの人はたんぱく質や生鮮食品を買えません。ただ、栄養補助剤や栄養補助食は停戦後に入ようになったので、診療所では無料で配布できるようになっているからではないかと思えます。

母子保健では、流産の割合がとて増えていることも気になります。戦前は1.5~2%だった流産の割合が10%になっています。多くの妊婦が爆弾にさらされ、移動を余儀なくされ、劣悪な住環境や栄養状態にあり、ストレスがとて大きいからです。

多くの国連診療所や公立の診療所が破壊されました。病院は破壊された中で負傷者の対応を担っています。仮設の医療施設はあるものの、総合的な施設はあまりなく、そのため小児科・一般内科・母子保健から歯科までの設備を備えている私たちの診療所には一か所あたり1日に350人から400人が来訪します。診療所はガザ市に二か所、中部に一か所あり、パレスチナ子どものキャンペーンの支援で、スタッフと、歯科の椅子を含め様々な医療器具を揃えることができています。

ガザの私たちの状況は非常に厳しいものがありますが、私たちは耐える力をもって、こうした状況にも適応し、脆弱な人たちに保健医療サービスを継続します。日本の皆さんが、同じ思いをもって、ガザを見捨てないでいただいていることに本当に感謝をしています。(2月23日)